

筑波大学における自動販売機の分布

奥 啓彰 (地球科学専攻)

- 1. 目的:** キャンパス内における自動販売機の位置を詳細に調べ、自動販売機の分布立地が適切であるかどうか、またより良い設置場所がないかを検討する。
- 2. 対象地域:** 筑波大学の筑波キャンパスの中地区と南地区の一部を対象とした (図 1)。入棟にカードキーが必要な棟については調査対象外とした。
- 3. 研究手法:** キャンパス内をくまなく歩き、自動販売機がどこに何台あるかを調査した。調査時には筑波大学のキャンスマップを使用した。また、ベースマップには筑波大学キャンパス GIS でも用いられている 32cm 解像度オルソ画像を使用した。
- 4. 結果・考察:** 調査の結果、調査対象地域に自動販売機は 62 台存在している (図 2)。缶とペットボトルの自動販売機は校内各所に存在し、紙パックや紙コップの自動販売機も缶とペットボトルの自動販売機と共に置かれている。パンの自動販売機は研究棟に置かれ、タバコの自動販売機は本部棟、栄養補助食品の自動販売機は 5C 棟にのみ、アイスの自動販売機は総合研究棟 B にのみに存在している。飲み物の自動販売機は校内全体に広がっているが、それ以外の自動販売機は立地が限定的である。パンの自動販売機は研究のため食事を満足に出来ない学生・教員を、タバコの自動販売機は職員を、栄養補助食品の自動販売機は体育専門学群の生徒などを主な購買層として設定していると考えられる。

また、階別に見ると 1 階に立地している自動販売機は 30 台、2 階に立地している自動販売機は 32 台で、3 階以上には自動販売機は確認できなかった。どのエリアも 1 階と 2 階ともに立地が見られるが、主に学生が使う講義棟に限ってみると第一エリアには 1 階に自動販売機が存在せず、第二エリアについても 2G のみとなっている。このほか、大学会館付近や体芸エリアには 1 階に自動販売機が存在しない。ただし、第一エリア付近と大学会館付近、体芸エリアについてはペデストリアンデッキが 2 階を通過しており、利用しやすい位置にある。

最後に、飲み物の種類別に検討を行った。ここではコーヒー、牛乳、スポーツドリンク・栄養ドリンクの 3 種類に注目した。その結果、コーヒーはどの自動販売機にも一定種類存在し、逆に牛乳は 2 カ所のみ存在していることが分かった。スポーツドリンク・栄養ドリンクは体芸エリアで多く、続いて各研究棟で多さが目立つ。体芸エリアでは運動をする人を、各研究棟では研究によって体力を消耗した人を主な購買層にしていると思われる。

ここで、最寄りの自動販売機までの距離を見てみると、ペデストリアンデッキ周辺はまんべんなく自動販売機が立地されているが、2A 棟と 2B 棟の間からは自動販売機が遠い (図 3)。2A 棟と 2B 棟の間、二学食堂付近に 1 台自動販売機を設置するべきであろう。



図 1 自動販売機の種類 (現地調査による)

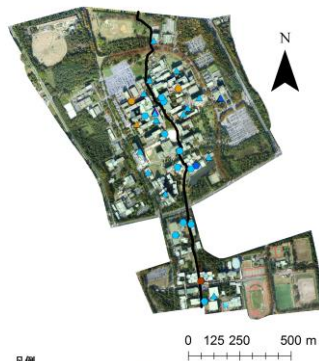


図 2 階別自動販売機の種類 (現地調査による)

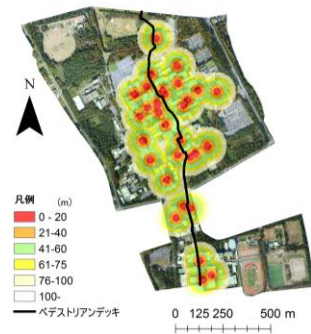


図 3 最近の自動販売機までの距離 (現地調査による)